

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	30	学部・研究科等名	政策創造研究教育センター
------	----	-----	------	-----------	----	----------	--------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

本センターは、1) 地域課題解決のための政策研究及びその成果を活かした政策提言を行うこと、2) 高等教育機関の特性を活かした専門職人材の養成により教育研究成果を地域社会に還元すること等を目的としている。そのため研究業績の評価においても、社会的課題に対して、複数の学問領域の視点から解決を考えること、また地域課題解決に密着した研究活動・社会貢献の実践活動を行うことに重点をおいて判断することが合目的である。センターの目的に沿った研究業績の選定範囲は、個別の学問分野での学術論文に加えて、地域課題解決のための実践活動の向上に資する図書・文献も評価対象とする。以上の条件を踏まえ、研究成果の学術的評価、及び地域政策への活用状況、反映状況が優れているかどうかという判断基準で研究業績を選定する。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義 社会、文化的意義、経済	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	2701	地域研究	産官学共同による共創的地域マネジメント創成事業  地域社会におけるマネジメント力向上のために、産官学が協働しながら地域づくりに取り組み中から、理論的知見と実践知の抽出および体系化を目指した。特に、熊本市内まちなか工房、芦北町大野小学校であった中山間地研究センターに加え、平成24年度から加わった天草市立富津小学校の廃校校舎を崎津ラボとし、計3カ所の地域ラボを拠点として、協働活動を展開した。	①上野真也・田中尚人・河村洋子(編著). 2013. 『コミュニティ・マネジメントのすすめ』成文堂、東京。  ② K. Nohara, K. Matsuda & T. Maruyama: Development of smartphone-based travel survey method: preliminary results in Kumamoto, Japan, Selected Proceedings of the 13th World Conference on Transport Research (WCTR 2013), #3242, in Rio de Janeiro, Brazil, 2013.7. ③ Maruyama, T., Mizokami, S., and Hato, E.: A smartphone-based travel survey trial conducted in Kumamoto, Japan: an examination of voluntary participants' attributes, Transportation Research Board 93rd Annual Meeting Compendium of Papers, #14-0997, Washington D.C. 2014.1.	S	本研究は「地域づくり」という広い概念に対して、分野の異なる研究者からなるセンター教員が多角的な視点から議論し、普遍的な実践知を提供することを目指したものである。また、本研究の成果である①書籍は、業績は少子高齢化が急速に進む社会情勢の中で、地域コミュニティをいかにマネジメントしていくかという視点に焦点を当て、分野を超えて実践的に地域づくりに取り組む読者を想定した実益性の高いテキストブックである。本研究は、研究とそこから得られた知見に基づく、地域コミュニティをマネジメントできる人材養成を強く意図しており、実践的な研究として、その社会的あるいは経済的な価値は評価されるものである。		
2	5705	土木計画学・交通工学	スマートフォンを活用した新たな交通調査の開発と実用化  従来、紙面に記入する交通行動調査に代わって自動的に行動軌跡を記録するスマホ・アプリを開発し、調査の質の向上を図った。この調査方法を熊本県・熊本市と共同で平成24年度熊本都市圏交通実態調査(パーソントリップ調査)に応用。交通調査に対する行政の費用削減、調査対象者の負担軽減、調査データの精度向上が期待され、国内外から高い関心が寄せられている。	① 円山琢也: スマホ・アプリ配布型大規模交通調査の可能性, 交通工学, Vol.48, No.1, pp.4-7, 2013.1 ② K. Nohara, K. Matsuda & T. Maruyama: Development of smartphone-based travel survey method: preliminary results in Kumamoto, Japan, Selected Proceedings of the 13th World Conference on Transport Research (WCTR 2013), #3242, in Rio de Janeiro, Brazil, 2013.7. ③ Maruyama, T., Mizokami, S., and Hato, E.: A smartphone-based travel survey trial conducted in Kumamoto, Japan: an examination of voluntary participants' attributes, Transportation Research Board 93rd Annual Meeting Compendium of Papers, #14-0997, Washington D.C. 2014.1.	S	本研究活動は、パーソントリップ調査と同時にスマートフォンによる大規模な交通調査を実施した日本初の事例として、熊本日日新聞(2012年10月9日、2013年11月22日)に取り上げられている。①は、その内容を速報した総説であり、②、③においては審査付き国際会議論文として基礎分析が発表され、総合的な分析内容は順次発表される予定である。国土交通省道路局新道路技術会議による大型の研究助成を受けて実施されている研究プロジェクトであり、国内外から注目を集めている。熊本県、熊本市との共同実施の調査で、交通計画・交通政策の立案に反映される点が評価される。		